



平成25年度通常総代会開催

平成25年3月22日午前10時 両総土地改良区会議室において、総代173名出席のもと農林水産省関東農政局並びに千葉県農林水産部より多数の来賓にご臨席いただき、通常総代会を開催いたしました。

理事長挨拶 〈要約〉



理事長 森 英介

平成5年から国の直轄事業により総事業費1,080億円で実施されております国営両総土地改良事業ですが、完了を目前に控えたこの時にあたりまして、栗山川統合機場などの本格通水を行わない中での事業完了と、地上権未設定問題、そして3.11の大震災を経験した中で、皆様方から不安の声が上がり、水が安定的に通水されるまでの監視組織の設置、また、諸課題の解決に掛かる費用については、地元負担が発生しないよう、農林水産本省に要望した結果、事業完了を1年延伸し26年度末とするのご決定をいただきました。

1月、全国土地改良事業団体連合会主催の「農業農村整備の集い」が開催され、「25年度当初予算において大幅に削減された農業農村整備予算を復活させる」また「TPP交渉により、日本の食の安全・安心を担い、多面的機能を発揮している農業・農村とこれを支える農家の生産意欲に、悪影響を及ぼすようなことは、断固行わないこと」等の要請が採択され、関係省庁へ要望されました。

ご来賓挨拶 〈要約〉



農林水産省関東農政局両総農業水利事業所 所長 播磨 宗治様

平成5年に着手した当事業も約20年が経過し、事業全体の完成まであと一步と言ったところまできており、来年度は、香取で第1揚水機場の電気施設の更新工事や、大須賀川排水工事、横芝光で栗山川統合機場や南条支線の工事、山武で南郷支線関係工事等を実施し、全ての施設の整備を完成させる予定になっており、併せて、皆さんにも参加いただいて非常時を想定した訓練等を実施して施設管理能力の向上に役立てていただきたいと考えております。

さて、改良区理事会からの要望がなされたことを受け平成26年度の1年間に限り、完成した施設を監視するための期間を設ける旨、農林水産本省から回答がなされ、ご要望の主旨に対応できるよう、フォローアップしていく所存でございます。

今後とも、皆様の一層のご支援を賜りますようお願い申しあげ挨拶といたします。



千葉県農林水産部 次長 鈴木 大作様

本県の主要産業である農業においては、「豊かな生活を支える食と緑づくり」として、生産基盤である農地及び農業用施設の整備や維持管理を進め、農業の生産力強化と担い手づくりの推進及び緑豊かで活力ある農山漁村づくりの推進を図っているところです。

国営関連のかんがい排水事業の両総南条支線は、平成25年度の事業実施に向けて法手続きが開始されました。両総多古支線につきましては、平成26年度の事業開始に向けて準備を進めているところでございます。また、基幹水利施設ストックマネジメント事業につきましても、西部幹線地区を平成27年度新規地区として事業推進を図っております。

皆様にはこれからも一層のご支援とご協力をいただきますようお願いいたします。